

甲斐市立竜王北小学校 学校関係者評価書

令和4年2月21日（月）

甲斐市立竜王北小学校 学校関係者評価委員会作成

＜学校関係者評価委員会＞

- 実施日：令和4年2月9日（水）・・・本年度はコロナ感染防止のため紙上提案
- 参加者：学校評議員：輿石正寛、小宮山千雪、小川啓介、横内裕
P T A会長：天野澄子
P T A副会長：深澤美佳、迫田純子、長谷川さやか
校長・古屋正樹、教頭・小山田拓也

I 学校側から提案された内容

（教職員自己評価を中心に）

- 1 達成状況について
- 2 改善策について
- 3 まとめ

II 協議された主な内容

○学校経営について

学校経営方針や学校教育目標に基づいた教育活動を行っているとした教職員の割合が高い。一方、PDCA サイクルで教育活動が取り組まれているについて、A 評価が 60%となっていることから、その趣旨を再確認していく必要がある。その際、PDCA のうち、特に弱いと認識しているものは何か検証することも必要。

○学校運営について

適切な情報管理の下で、報告・連絡・相談等の情報共有がなされ、共通理解をもって協働体制の中で教育活動が展開されている。危機管理マニュアルの理解については年々改善傾向にあるが、引き続き周知と内容の見直しが必要である。校務支援システムはさらなる有効活用を図ること、また教職員の働き方改革をさらに推進していく。

○学習指導について

質の高い教育を目指し、確かな学力を育成することに一定の手ごたえを感じている。しかし、学校の授業が楽しくない、授業が分からないとした児童がわずかながらでもいることを受け止め、今後も「わかる授業、楽しい授業」づくりに向け、教師の授業力向上やきめ細かな指導体制の充実を図っていく必要がある。

○生徒指導について

教師と児童とのコミュニケーションを深め、信頼関係を構築することや、何か困っているときに担任の先生に話ができる関係づくり、アンケート等の各種調査を活用し、「問題行動の早期発見と対応」に努める。キャリアパスポートについて教職員の研修機会を設け、有効活用を図る。ユニバーサルデザインをもとに、学習規律や生活規律を整え、当たり前のことを当たり前にする児童を育成する。

○地域との連携

コロナ禍により、地域の方々の来校機会が減っているが、タイミングを計り、内容と方法を工夫しながら出前授業等を実施してきた。今後も引き続き地域との連携・協働について検討していく。また学校ホームページ等を活用した情報発信にも努めていく。

○学校の特色に関して

「ノーチャイム制」「『広場の時間』の活用」「モジュール学習」「ユニバーサルデザイン」について、一定の成果が得られている。「吹奏楽部」の活動はコロナ禍で縮小されている。これら本校の特色としてあるものは、今後も共通理解のもとで取り組んでいく。

○創甲斐教育について

学習指導要領の適切な実施を通して学校教育目標の実現を図ることで、「国語力」「自己表現力」「体力」の向上に迫っていく。

<学校関係者評価書>

I 全体評価

項目によって差はあるものの、全般的に高い評価になっている。コロナ禍の学校は、様々な制限や制約の中で教育活動を展開しているが、教職員が「子ども達のために」を主眼としながら北小教育を円滑に進めるために尽力している姿がうかがえる。

肯定的な回答率が伸びている内容については更なる向上を目指すとともに、肯定的な回答率が低下した項目については、実態を精査し改善を図る必要がある。

II 特徴

<学校教育目標・学校経営について>

○教職員自己評価の結果から、学校経営方針に基づき、個々の教職員がしっかりと問題意識を持ち、全体で課題を明確化し取り組んだことがわかる。いじめや不登校など、児童一人ひとりの課題に応じた対応に努めることができている。

<学校運営について>

○今年度も引き続き新型コロナウイルス感染症対策に取り組んだ。中止や変更になった行事も多い中、運動会等実施できた学校行事を通して、子ども達の成長につながる取り組みができている。

○教職員の多忙化が社会的に取り上げられるようになっている中、教職員自身に「余裕」や「ゆとり」をもたらすためにも、チーム体制をさらに充実させたり、時間を効率的・効果的に活用したりする様々な工夫を試みていく必要がある。

<学習指導について>

○整備された ICT 機器を積極的に活用し、これまで行ってきた教育活動を推進・発展させると共に、さらに個に応じたきめ細かな指導に配慮することが大切だと考える。

○コロナ禍で分散登校や休校、出席停止などがあり、学習がきちんと定着しているのか不安を感じている児童、保護者へのケア、フォローに配慮してほしい。

<生徒指導について>

- 全体的に、本校の教育が充実した中で行われていると言える。多くの子どもたちにとって楽しい居場所となっていることから、学校生活の中にそれぞれの力を発揮でき活躍できる場が確保されていると考えられる。
- 今後も子ども達とのコミュニケーションを深めながら信頼関係を築く中で、問題行動の未然防止や早期発見、早期対応を図っていくことが大切。

<地域との連携について>

- 学校評議員や学校関係者評価委員会、保護者や地域からの声を受け止め、課題解決に向けた具体策を講じるとともに、信頼される開かれた学校づくりに努めていくことが重要である。また、地域の高齢者は学校の役に立ち、子ども達と触れ合えることが生きがいにもなっている。コロナ禍が明けた時の

<学校の特色について>

- 「ノーチャイム制」「広場の時間」「モジュール学習」「ユニバーサルデザイン」については、引き続き有効に活用して欲しい。「吹奏楽部」についても特色としながら、無理のない活動を続けて欲しい。

<創甲斐教育について>

- 「甲斐っ子の宝」（清掃、整頓、あいさつ）などに取り組みながら、当たり前のことがきちんとできる子どもを育てて欲しい。

Ⅲ 今後の課題として確認されたこと

- P D C Aサイクルを通した教育実践と評価の具現化。
- ICT 機器の積極的な利用と、主体的・対話的で深い学びを目指した教育実践の推進。
- 外国語・プログラミング学習・道德等、新しい教育の実施に向けた工夫の具体化。
- キャリアパスポートの有効活用について、教職員の理解を深める。
- 竜王北小の子ども達に必要な力は何かを考え、行事や諸活動の改善や見直し。
- 心のこもったあいさつが自然にできるといった、当たり前のことが当たり前でできる子どもの育成。
- 教職員が子どもたちと向き合う時間と心のゆとりを確保するための業務改善、働き方改革を推進する。
- 授業における評価規準や評価方法の明確化、情報管理、いじめ等の早期発見と対応等、自己評価で課題のあった項目について、教職員の資質向上と意識改革の推進。
- 学校ホームページを中心とした積極的な情報発信。
- 高齢者にとっての生きがいにもつながる、地域人材の積極的な活用。

※特記事項

特になし

記載責任者 竜王北小学校学校関係者評価委員 天野 澄子 印